毎月5日発行 定価1部10円（組合員の購読料は組合費に含む）
1996年3月4日第三種郵便物認可

MONTHLY
れんごう 北海道

JTUC
2018.10.5
No.297

http://www.rengo-hokkaido.gr.jp

発行 日本労働組合総連合会 北海道連合会 発行責任者 杉山 元
〒060-8616 札幌市中央区北4条西12丁目 ほくろうビル6F TEL（011）210-0050 center@rengo-hokkaido.gr.jp

北海道胆振東部地震について

2018年9月6日未明に発生した「北海道胆振東部地震」によって多くの方が被災され、厚真町をはじめ道央を中心に甚大な被害を受けました。お亡くなりになられた方に衷心よりお悔やみ申し上げますとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

連合北海道は被災者・被災地への支援のためカンパ口座を開設しました。

また、連合北海道ボランティア団の派遣については、現地調査の結果、道内外から多くのボランティアの方が参加されており、連合北海道が「大きな団」として参加することが現地の混乱を招く懸念があるため、「ただちに」連合北海道ボランティア団の派遣はせず、避難・支援が終息に向かう時期に再度検討することとしました。

■カンパ口座の開設

口座名 連合北海道胆振東部地震カンパ
代表　出村良平

番　号 北海道労働金庫本店 普通 1081312
※ろうきん間の振込手数料免除（全国）

期　間 2018年9月18日～11月30日

※お寄せいただいたカンパ金は、被害の大きかった自治体ならびに日本赤十字社等への寄付を検討し、連合北海道執行委員会の協議を経て決定します。

■現地調査・ボランティア団の派遣

9月14日、出村会長が鵡川・厚真・安平の被災地へ入り、地区連合・現地ボランティアセンター等を訪問し、お見舞いを申し上げるとともに、連合北海道ボランティア団の派遣について、具体的に求められる内容と時期等について伺いました。

その結果、〇現在、多数のボランティアが参加されていること。〇求められる支援（ニーズ）数がまだまだ出てきていないこと。〇ボランティア人数は三連休に更に増加が見込まれること。〇一方、避難の期間や、今後、一段落した後のボランティア人数が不確定であること。〇避難・支援が長期化した場合、新たなニーズが出てくる可能性があることが判明し、次の対応とすることとしました。

①「ただちに」連合北海道ボランティア団の派遣は行わない。

②「大きな団」としての参加が現地の混乱を招く懸念があるためであり、組合員のボランティア参加を否定するものではなく、「個人」で参加していただく。

③避難・支援が終息に向かう時期を基本に、再度調査し検討する。

〈この記事のアドレス〉
http://www.rengo-hokkaido.jp/whatsnew14/?p=3909

「日米共同訓練の規模縮小！オスプレイ参加に反対する全道総決起集会」を開催

連合北海道は9月3日、札幌市大通西4丁目において、9月10日から行われるオスプレイを使用しての日米共同訓練に反対する全道総決起集会を約500名の参加のもと開催した。

主催者挨拶にたった連合北海道出村良平会長は、「安全性に極めて問題が多く、激しい騒音をまき散らすオスプレイの訓練は即刻中止すべきである」とし、「今なすべきことは、沖縄における米軍の整理縮小であり、極めて不平等な内容の日米地位協定の抜本的改定である」と訴えた。また、この訓練が極東における軍縮や平和の環境づくりに逆行するものであり、今進めている北方領土返還交渉にもロシアを刺激し悪影響を与えると指摘。多くの関係自治体の住民が不安の声をあげていることにもふれ、「日本政府はこの声を真摯に受け止め、国民の安心と安全を守るため、オスプレイ参加の日米共同訓練の反対を強く訴えることを求める。みんなでオスプレイNO！の声を上げていこう」と参加者に呼びかけた。

続いて、立憲民主党北海道市橋修治幹事長が、「いつでも、どこでも、どのようにでも訓練できることを許しているのが日米地位協定。この問題を真剣に考えていかなければ、この北海道の広い大地がどこでも演習場にされてしまうと危惧している。多くの国民や道民の力をもってオスプレイを飛ばせないようにしなければならない」と述べた。

さらに国民民主党北海道三津丈夫選対本部長は「日米地位協定を背景とした拒否権のない軍拡競争に歯止めをかけていくことが重要。この協定に対し断固として反対するという声を上げていこう」と訴えた。最後に北海道平和運動フォーラム長田秀樹代表が「オスプレイは言うまでもなく欠陥機。今回の訓練では低空飛行訓練など、より危険性が高い訓練が行われる。この北海道の空に欠陥機オスプレイを米軍のやりたい放題で飛ばすわけにはいかない」と締めくくった。

連合十勝地協前田英司事務局長による集会アピールが採択されたのち、参加者は市内をデモ行進し、「オスプレイは日本から出て行け」など、市民にアピールし理解を求めた。

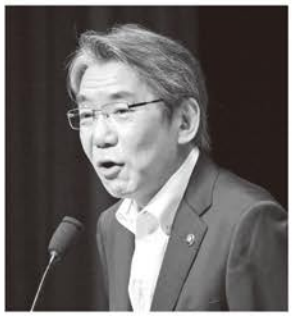
〈この記事のアドレス〉
http://www.rengo-hokkaido.jp/whatsnew14/?p=3883

「地域活性化フォーラム in 道東」を釧路で開催

生活の底上げが一番の地域活性化ボトムアップの視点が必要

連合北海道と釧根地域協議会が共催する「地域活性化フォーラム in 道東」が9月1日、釧路市民文化会館で開催された。地域活性化フォーラムは2015年の十勝（音更）を皮切りに上川（旭川）、道南（函館）で実施しており、今回で4回目の取り組み。土曜日の日中にもかかわらず、釧根地協の尽力で、300人に上る参加者が釧根地域を中心に全道各地から来場、「釧路の未来へ！共に生きるとは？～支え合いのリアル～」をテーマに講演とパネルディスカッションが行われた。

主催者の連合北海道出村会長は、他府県と比較して高い離職率となっている北海道の若者の雇用問題や子どもの貧困、経済格差などに触れるとともに、高齢化・人口減少などが進む釧路の状況について「釧路の将来は日本の行く末。生活困窮者の自立支援事業など全国に先駆けて実施してきた釧路で、互いの連携を強め、さらに課題やその改善策が見いだせれば、さらなるモデルとして全国に発信していけると考えている」とし、本フォーラムへの期待を語った。また、多忙な公務を縫ってあいさつに



駆けつけた蝦名釧路市長は、都市部・首都圏への一極集中の問題を指摘し、「地域に住む我々が地域を盛り上げていくことが重要だ。働くことをキーワードに環境をどう整えるか、一緒に進めていきたい。こうした場をつくってくれたことに感謝したい」と釧路でのフォーラム開催に謝意を述べた。

基調講演は、連合本部相原事務局長を講師に実施。事務局長は少子高齢化・人口減少など急速に日本の社会構造が変わり、従前のやり方では全体最適化が図られない現状について説明。自動車に例えて「アクセルワークを変えたり、ハンドルをきったり、ブレーキをかけたりすることが必要」とし、「人口や労働力減少などの要件を受け止めて、私たちが何をすべきか、そこに気づくことが大切だ」と述べた。また、IoTやAIの進展による技術革新・社会変革の渦中にあってプラス・マイナス様々な見方があることに触れ、「新しい技術とどのように付き合っていくかを深く考えていかなければならない局面」とした。SDGs(エスディージーズ国連持続可能な開発目標)は「普遍的な真理や人間が追い求めなければならない原則」とし、その実現には「一人ひとりの行動を変えていくことが近道」と述べた。その上で「元気で夜遅くまで働ける人だけが社会を支えれば良いのか？様々な人による様々な支え合いが必要だと認識すれば、その中にいる私たち一人ひとりの行動を変えていけるはず」と述べ、誰もが働きやすい社会環境の整備が将来あるべき社会の構築につながることを訴えた。

パネルディスカッションは、釧路公立大学の千田講師をコーディネーターとして、厚生労働省地域福祉課生活困窮者支援室の野﨑室長、北海道セーフティネット協議会の篠田代表理事、北海道新聞釧路支社の菅原支社長、釧路商工会議所企画広報課の元氏課長の4人をパネリストに実施。今回は新しい試みとして、架空に設定した「生きづらさをかかえる一人の若者＝石黒さん」(ペルソナシート)を作成。少子高齢化による労働力・担い手不足などのなかで、具体的な若者支援にスポットをあてて議論が進められた。

冒頭の問題提起で野﨑室長は音別町で再建したフキ加工の取り組みなどの実例を挙げ、「人口減少と財政的制約など縮小局面のなかでタテ割りは機能しない。その反省に立って厚労省も地域共生社会というコンセプトを掲げた。例えば福祉と企業と農業をつなぎ合わせて“一石N鳥”で問題を解決しようということ。その実現に向けては働くことをキーワードに協働することだ」と述べた。篠田代表理事は養育困難家庭で育った若者が少数ではないこと、育った社会環境の違いによる世代間の価値観ギャップとそこに苦しむ若者の現状などを指摘。「つながりがない若者が多い。行き場のない若者を受け止め、役割と仕事をもたらすことが必要だ」としながら、運営する「暮らしの共済サービス事業『せっせ』」の取り組みを紹介した。

「石黒さん」をめぐる議論では、菅原支社長が「仕事が続かないなど、責任ある仕事を与えられないと思うのが妥当でないか。その上で、どう支え合うか。真面目で作業に取り組む姿勢があれば合う仕事はあるかもしれない」、また、「他の人の働きによって自分の命をつないでいるのはリアル。人と人とのつながりが見えなくっているなかで、それをわかるように伝えていくことを新聞が進めていきたい」と語った。元氏課長は「石黒さんの支援は厳しいというのが正直な考えだったが、優れた才能があるかもしれない。時間はかかるが長期的な視点で企業が考えていければ良い」と語った。これに対し篠田代表理事は「就職したら企業にお任せというのは企業に酷だ」とし、「労働組合など企業の外で生活を支える仕組み、互いにWin-Winの関係をつくる新しい連携があれば良い」とした。

この後も「石黒さん」の議論は続き、コミュニケーション・人間関係を構築するためアクティブシニアに活躍してもらうことや、一般就労だけでなく働くことを通じ少しずつステップアップしていけるよう「働くことを柔らかく考えいく必要がある」など多くの意見が出された。また、フロアからは「若者には教育段階から過当競争が持ち込まれている。社会がゆるやかになるべきだ」などの意見もあった。

最後は、「市民の生活を底上げすることが一番の地域活性化。ボトムアップの視点で考えることが必要」「大切なのはそこに住む人の暮らし。地域の力を高める地道な活動が必要」との意見に会場全体の共感が得られた。パネルディスカッション終了後、釧根地域協議会とコーディネーター、パネリスト全員が今後も協力して取り組みを進める「誓約書」が調印され、フォーラムは閉会した。

〈この記事のアドレス〉
http://www.rengo-hokkaido.jp/whatsnew14/?p=3886

2018年第21代高校生平和大使 帰国報告

高校生平和大使が今年もスイス・ジュネーブの国連欧州本部などを訪問し、全国から集まった署名を届けたほか、スピーチや街頭署名活動などを通して、核兵器廃絶と世界平和の実現を訴えた。北海道からは、北海高校2年の上田礼芽さんと、札幌日本大学高校2年の後藤来夏さんの2名が派遣され、このほど帰国報告を行った。

上田　礼芽（あやめ）さん
（北海高校2年）

スイス派遣では1週間というとても短い時間の中で非常に濃い時間と貴重な経験をさせていただき、私自身ひとまわり、それ以上に成長したと実感しています。

今年は21代目ということで、20年間積み重ねてきた歴代の方々の思いを継承しながら新たな一歩を踏み出しています。例年とは違い今年はICANを訪れたり、カザフスタン政府主催の映画に参加しました。ICANは昨年ノーベル平和賞を受賞した団体で、私たちと同じ核兵器廃絶を訴える団体として、学ぶことがたくさんありました。ICANが受賞したノーベル平和賞のメダルを触らせていただくことができ、持った時はそのメダルと盾の重みを感じ、私たち平和大使もノーベル平和賞にノミネートされている側として多くの方に託された思いを背負い、立っていくという責任を強く感じました。

私はYWCAでスピーチをしました。私の未熟な英語でも一生懸命理解してくれ、私たちが伝えた核兵器廃絶の思いを伝えてくれると、同じ若い世代の方が言ってくれました。こうして平和の輪が繋がってくれることが「ビリョクだけどムリョクじゃない」と改めて思うことができました。

国連欧州本部で軍縮会議を傍聴した際に、トルコの議長が初めに私たち"Hiroshima・Nagasaki peace messenger"を紹介してくれました。また、カスペルセン軍縮所長の元を訪れ、20人全員でスピーチを行いました。彼女が国際社会の女性の1人として、私たちに「自分は自分」と性別を考えず、負けない気持ちを持って国境を超えて活動を続けて欲しいと言ってくださいました。

今回の派遣で被爆者の思いは国籍を問わずたくさんの人の心に響いていました。いずれ聞けなくなってしまうこの声を私たち若い世代で引き継ぎ、よりリアルに伝えていかなければならないんだということを身にしみました。また、北海道に住んでいると生で被爆者の声を聞く機会が少ないですが、平和について考えるきっかけを多く作り、私自身の経験を時代に合わせ、SNSなどを活用しながらシェアしていきたいと思います。

改めて、今回の活動を支えてくださった方々、応援してくれてた多くの方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

後藤　来夏（らいか）さん
（札幌日本大学高校2年）

このスイス派遣を通し、私は高校生平和大使として大変貴重な経験を積むと同時に確かな一歩を踏み出すことができました。

カザフスタン軍縮大使からは、ソ連の核実験によってカザフスタンが受けた被害のお話をお聞きしました。あまり知られていない「核実験場」の被害は想像していたよりも悲惨なものであり、広島・長崎と同様に伝えていかなければならない、忘れられてはいけない歴史であると感じました。

トローゲン州立高校では、核兵器が禁止されるべき理由や原爆がもたらした悲劇を伝えていく方法等について現地の学生と意見交流を行いました。交流した生徒は原爆についてあまり知らなかったにも関わらず私に質問して知識を得ながら積極的に意見を提示してくれたため、実りある交流を行うことができました。

「私たち若い世代が平和のためにできることは何か」という質問に対し、沢山の方が私たちの目をまっすぐに見つめながら回答して下さったこと、どなたも"すぐに"ご自身の強い思いを回答してくださったことが私の中で深く印象に残っています。

それらの回答全てには、若い世代に対する、若い世代が作っていくすぐ先の未来に対する、熱い期待が込められていました。

すぐに答えて下さったということからも、若い世代への期待の大きさが伝わります。私はこれらの回答をお聞きしたことで、これからの未来を作るのは他でもない私たちだということに気がつき、強く実感することができました。今後の活動では、"私たち自身が作り上げていく未来"の平和に対する思いの輪を丁寧に丁寧に広げていきたいと思います。

今回、このような貴重な機会を与えていただき本当にありがとうございました。沢山の温かいご支援に心より感謝申し上げます。

10月の主な動き　イベントカレンダー

■最低賃金周知街宣
1日（月）12:00／札幌紀伊國屋書店前

■地方連合会代表者会議
10日（水）14:00／浦安ブライトンホテル

■第78回中央委員会
11日（木）10:00／浦安ブライトンホテル

■第12回執行委員会
12日（金）10:15／連合北海道会議室

■第2回役員推薦委員会
12日（金）12:15／連合北海道会議室

■会計監査
12日（金）15:00／連合北海道会議室

■最低賃金相談ダイヤル
18日（木）10:00／連合北海道事務所

■中央執行委員会
18日（木）13:30／連合会館

■北海道原子力防災訓練調査活動
22日（月）09:00／泊村、他

■第20回青年委員会ユースラリー
27日（土）13:00／TKP

■第25回青年員会総会
28日（日）09:00／TKP

連合北海道第31回年次大会
24日（水）09:30
ロイトン札幌